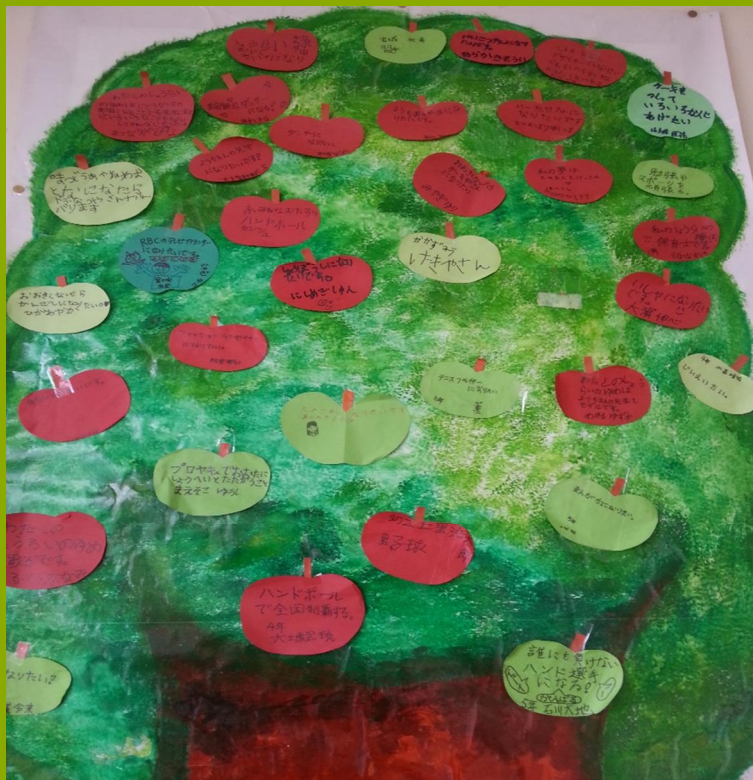


ていーだこども食堂による地域交流および こども未来応援プロジェクト事例発表



- みんなで食べよう 地域の人々と楽しく調理 -

■ 運営概要

Ⓐ 団体名

ていーだこども食堂 運営委員会

Ⓐ 運営メンバー

委員会数名

未来応援サポーター（PTA、市民大学、大学生、自治会他）

Ⓐ 活動場所

うらそえぐすく児童センター（連絡先：098-874-0417）

Ⓐ 活動日

定例会(毎週水曜) 18：30～20：30

こども食堂(毎週土曜) 12：00～15：00

■活動概要（誰もが参加できる地域の居場所として）

以下、7つを活動指針とし誰もが気軽に参加交流でき繋がる場を通じて、地域みんなの居場所として地域への定着を目指す。

1. みんなで一緒にご飯を作り、一緒に食べ、楽しい時間を共有する場を提供する。
2. 親子参加型の食育セミナーや季節毎の楽しいイベントを楽しむ場を提供する。
3. 食の大切さを学び、逞しく生きる力を育む場を提供する。
4. こども達の小さなSOSを見落とさず、気軽に相談できる場を提供する。
5. 学びを希望する子へは、学習支援の場を提供する。
6. 近隣自治会との交流機会の場を設け、地域を愛する気持ちを育む場を提供する。
7. こども達を中心にイベントの企画運営を行い、主体性を育む場を提供する。

■活動経緯（なぜ児童センターや自治会なのか？）

P T A活動を通じて、給食以外にご飯を食べられない子供達や孤食になりがちな子供達の存在を知りました。支援を模索する中で彼らの自尊心を傷つけず、さりげない支援の必要性を学んだ。彼らが学校以外の日常において、誰かを警戒せず他の子と同じように出入りでき設備があり、すぐにも始められる場所。それが「**児童センター**」や「**地域の自治会**」でした。

彼らの多くは本音を語ってはくれない。自分の状況を判断する基準は友人やクラスの子で、どこか違和感を持ちながら、彼らは未熟な大人へと成長していきます。

その時々で小さなSOSを発しています。社会との関わりを心の何処かで求めています。そんな彼らが、信頼できる地域の大人たちとの関わり合いの中で、**「自己肯定感を高め、諦めかけた夢の続きを、一緒に考え、ともに未来を築いていく」**そんな地域の居場所になればとの思いからこの活動が始まりました。

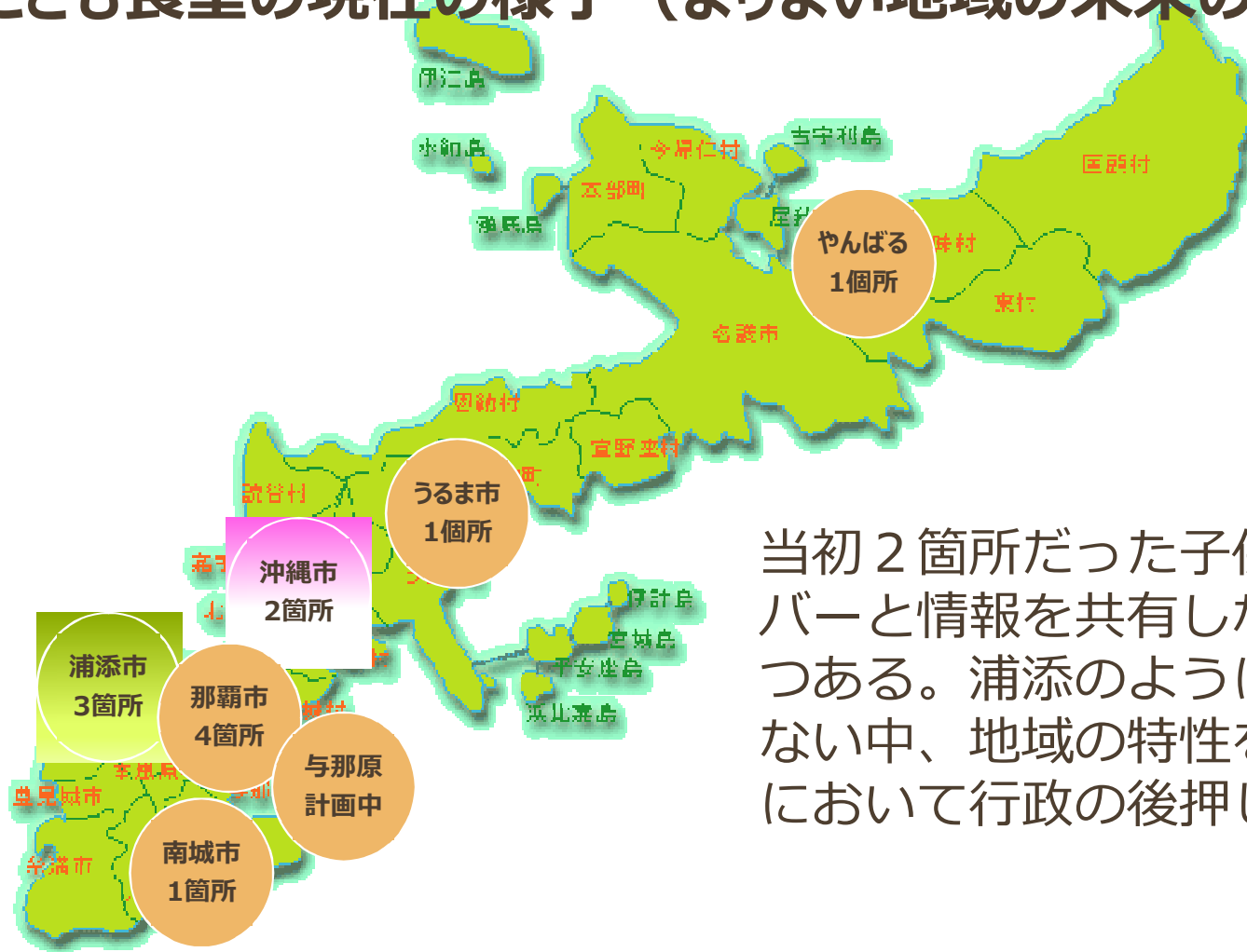
■現状（無理なく継続できる仕組みを目指して）

昨年5月に始まった活動も2月27日で39回を迎えたことが出来ました。
当初3人で1回あたり1000円の予算で始まった活動も6月のまちづくりプランや報道に取り上げて松本市長が来館されたことをきっかけに、子どもの貧困問題を初めて知った地域の自治会や地域の個人的な協力、さらには食品メーカー（3社）から食材提供のご支援を頂き、課題の一つである食材については備蓄できるまでご賛同を頂いている。次年度以降、行政や社協のフードバンク事業と連携した食材ネットワークを構築を行ない、さらにはPTAと連携し、事務負担や当活動を支えてくれるサポーターの充実を図るなかで、地域誰もが無理なく参加でき楽しい居場所の中で、課題を抱えた子も、そうでない子も、地域の子供達を見守り「**生きる力を育める地域の居場所**」としての広報周知を図り、
「**どの校区内でも地域と連携して出来る活動**」として支援の輪を広げていく。

■活動イメージ(地域で作る支援の輪)



■ こども食堂の現在の様子（よりよい地域の未来のために）



当初 2 箇所だった子供食堂も各地のメンバーと情報を共有しながら各地で増えつつある。浦添のように恵まれた環境ではない中、地域の特性を踏まえ居場所作りにおいて行政の後押しは必須。

■こども食堂年間イベント(心に残る思い出づくりを)

月	こども食堂イベント	地域・野外活動他
7月	みんな楽しい流しソーメン	自治会や民生委員への周知（通信vol1）
8月	カレーパーティー（ナン手作り）	
9月	みんなでワイワイバーベキュー	自治会や民生委員への周知（通信vol2）
10月	ハロウィーンで地域へ感謝	食育体験（手作り味噌） 自治会や民生委員への周知（通信vol3）
11月	いろんな料理にチャレンジ	野外活動（今帰仁シークワサー狩り）
12月	クリスマス料理にチャレンジ 年越し手打ちそば作り	
1月	餅つき・ムーチャー作り	自治会や民生委員への周知（通信vol4）
2・3月	地域交流および感謝祭	出張こども食堂（学びフェスタ）

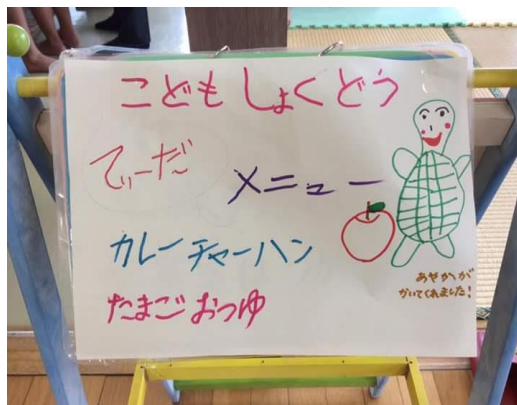
■ ていーだこども食堂 活動の様子(計53回 6/4時点)

2015年5月23日(第1回)～6月13日(第4回)



■ ていーだこども食堂 活動の様子

2015年6月20日(第5回)市長訪問



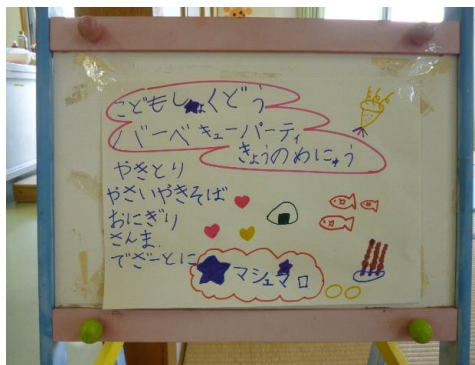
■ ていーだこども食堂 活動の様子

2015年7月18日(第9回)流しそうめん



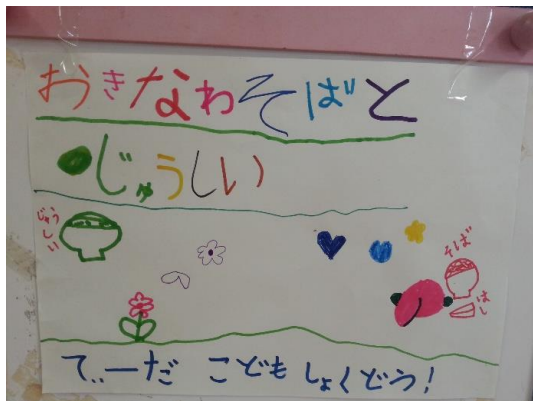
■ ていーだこども食堂 活動の様子

2015年9月19日(第19回)バーベキュー



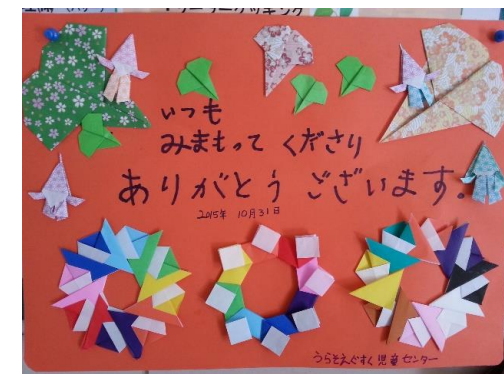
■ ていーだこども食堂 活動の様子

2015年10月17日(第22回)沖縄そば作り



■ ていーだこども食堂 活動の様子

2015年10月31日(第24回) ハロウィーンパーティー



■ ていーだこども食堂 活動の様子

2015年11月7日(第25回) シークワーサー狩り



■ ていーだこども食堂 活動の様子

2015年12月12日(第29回) テレビ・新聞取材



■ ていーだこども食堂 活動の様子

2015年12月19日(第30回) クリスマスパーティー



■ 活動を通じた子どもたちの反応

- ・ お母さんが体調不良の時にご飯を作ってあげると喜んでくれてたのが嬉しかった（女の子）
- ・ ピアノを習いたかったが親に言えなかったけどこども食堂のおかげで親が応援してくれて嬉しい（女の子）
- ・ エイサーやバトミントンが楽しい（男の子）
- ・ バーベキューや流し素麺が思い出になった（男の子）

■ 効果、地域の反応

- ・ 対象児童の見守り支援体制が整ってきた

⇒ケース会議だけではない、学校・行政・地域との実践が伴った連携

- ・ 地域の大人たちの意識づけや新たな気づき

「自分の子や孫が通っている学校にもそういう子がいるんだ・・・。

自分にできることがあれば、貢献したい！！」

⇒身近な問題として感じる⇒できる範囲での協力⇒地域協力者が増える

- ・ 地域のために日々活動している先輩方と若い世代がつながってきた

（地域の課題）自治会や民生委員児童委員など地域協力者の高齢化

「若い世代も頑張っているんだ！次世代のためにがんばろう！」

⇒日々の活動は受け継がれているという安心感、意味があるという自信に！

■これまでの取り組みから気づいたこと

- ・ 子どもたちの自尊心を傷つけずに、さりげなく支援していくことが大切
- ・ 誰かを警戒することなく、他の子と同じように出入りできる居場所の必要性
- ・ 食えることが精神的な安定につながり、そのうえで生活習慣や学習支援の改善に向けた取り組みが必要である
- ・ 少しずつ丁寧な信頼関係を築くこと。その結果、周囲の大人に少しずつ本音を話してくれ、その後のケアにつながる
- ・ 地域との関わりの中で自己肯定感を持てるようになってきている

■活動を通じて見えてきた課題 1

- ① 個人情報の壁

⇒子どもも高齢者も「地域見守り」と簡単いうけれど「個人情報開示」はどこまで？
行政や学校、地域との意識の差

- ② 地域協力のさじ加減

⇒「やる人しかやらない」負担のない地域での支援、見守りはどこまで？

- ③ CSW（コミュニティソーシャルワーカー）の認知度不足、スキル不足

⇒浦添市においてはCSW事業がスタートして10年、ワーカーの出入りが多く、
「地域に根付き、地域の特性にあった支援、連携」の積み重ねができていない。
CSWの認知度やスキル不足による地域支援の格差、長期的な雇用環境

■活動を通じて見えてきた課題 2

④ 市民活動の限界

⇒子どもを通して家庭環境を知ることになるが、家庭までは支援できない。

専門機関と連携した取り組みをどのように形で構築していくか

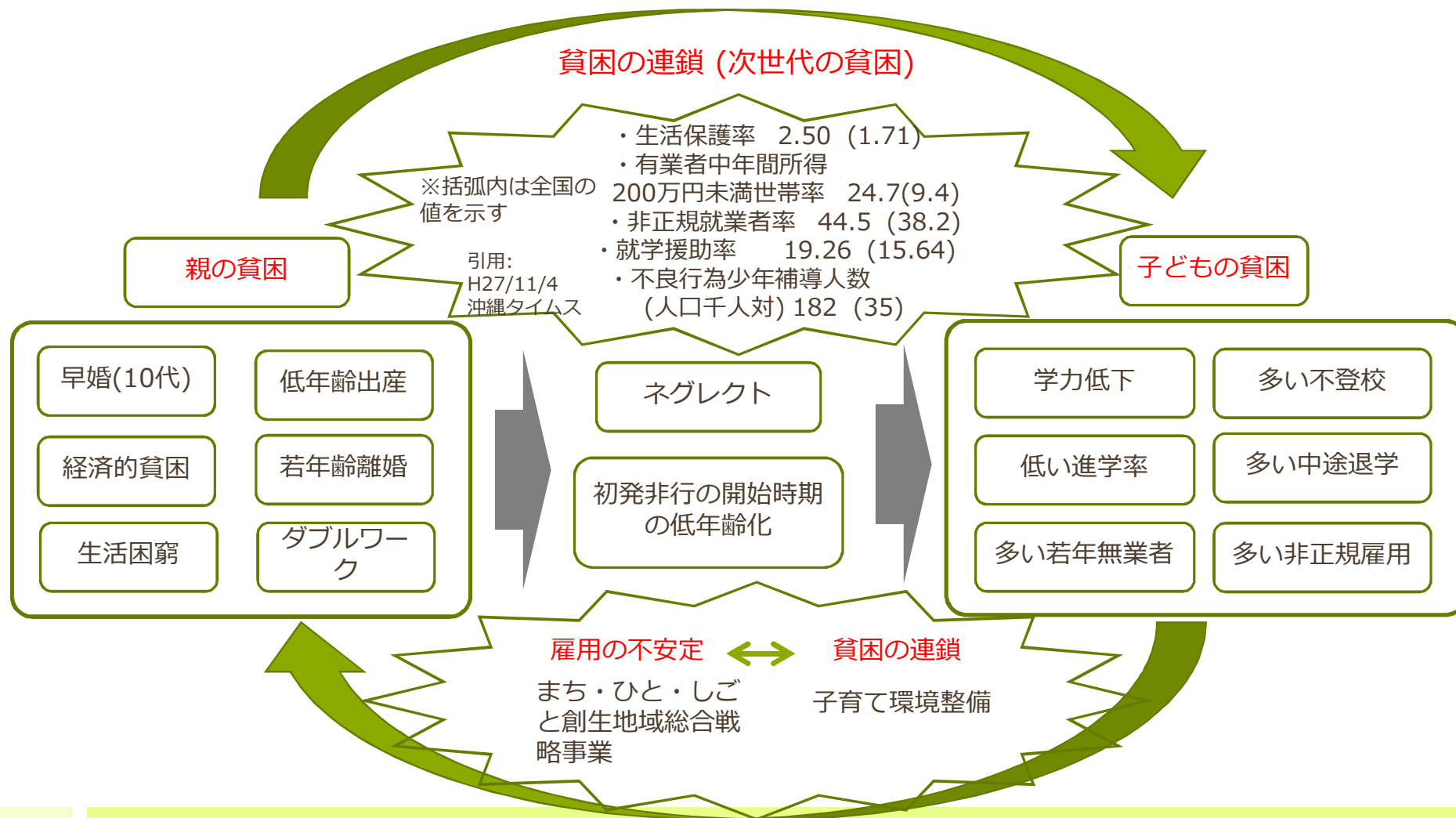
⑤ 更なる支援の必要性

⇒学習到達度に応じた学びの場の提供やお泊まり会などを通し、基本的な生活習慣（片付け、掃除、シャワー、洗濯など）と、社会性を身に付けるためのプログラムの計画実施

⑥ 長期的な人材確保および雇用環境の整備

⇒少しずつ積み上げてきた信頼関係を失いかねない、機械的な人事異動がもたらす子供たちへの影響は計り知れない。長期的な視野に立ち、子供たちとの信頼関係を第一に、必要な人材が安心して向き合えるよう行政側の積極的な雇用環境整備が必要

■ 貧困から抜け出すこと、それは未来の扉を切り開く入口に立つこと
食べることは「良」い「人」を作る



■ 収支清算表

収支清算書（7/21～）

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	計
食材費		7,769	12,406	15,334	3,544	22,576	13,700	7,720	83,049
備品費		7,311	4,249	9,720				65,661	86,941
セミナー費				4,800	3,600				8,400
交通費					7,120			2,000	9,120
運営・消耗品費		8,400	6,648	2,324	4,582	3,791		26,121	51,866
計		23,480	23,303	32,178	18,846	26,367	13,700	101,502	239,376
								助成金	237,000
								自己負担	(2,376)

■最後に（地域のこどもは地域で守り育てる）

県内に住む数多くの未だ手が届いていない子供たちへ一日でも早く
地域一体となった支援の輪が届くことを切に願います。

地域の大人たちに見守られた子供たちは10年後、20年後、逞しく成長し、
自らが生まれ育った地域を愛し、自分の家族を大切にし、必ずや地域に必要な
人材になるでしょう。今やらずして地域の明るい未来はありません。

自らの子供や孫達の未来のためにも『誰にでも優しい地域』になるよう
ハートを持った大人達が無理なく出来ることを一緒に実践していきましょう！！

以上、ご清聴ありがとうございました。